会　　議　　録

会議の名称	市民参加推進会議（第４６回）
事　務　局	企画財政部企画政策課企画政策係
開催日時	平成２８年１１月２５日(金)午後７時00分～午後９時00分
開催場所	前原暫定集会施設　Ｂ会議室
出　席　者	委員長　西尾　隆　委員 副委員長　渡邉　大輔　委員 委　員　一山　稔之　委員　佐久間　博子　委員 原　久子　委員　三輪　茉莉香　委員 五島　宏　委員　中村　彰宏　委員 天野　建司　委員　中谷　行男　委員
欠　席　者	大久保　勝盛　委員、山下　光太郎　委員
事　務　局	企画政策課長　三浦　真 企画政策課係長　古賀　誠 企画政策課主事　髙橋　奏恵 企画政策課主事　齋藤　彬子
傍聴の可否	(可)　一部不可　不可
傍聴者数	０人

【会議次第】

1　開会

2　市民参加条例運用状況等について

⑴　今後のスケジュールについて

⑵　提言の具体的内容の検討について

⑶　次回推進会議の開催日について

3　閉会

【会議結果】	全文記録ページ
1　開　会	P1~P2
2　市民参加条例運用状況等について	P2
⑴　今後のスケジュールについて 現在の状況等を踏まえ、資料１で今後のスケジュールを示した。	
⑵　提言の具体的内容の検討について 資料２では、今まで議論した内容をまとめており、これを基に提言を作成すると、資料３のようなイメージとなる。	P3~P23
【推進会議の委員の役割】（資料２より） 市民参加推進会議が主体となってワークショップマニュアルを作成することを考えるのではなく、若者の市民参加をより一層推進するためにどのような手法が有効かを考え、市長に提案する。	P3

【主な意見】 （タイトルについて）	
・「若者の市民参加をより一層推進するために」ということだが、若者に限定した提言の内容が少ないように思う。このタイトルでいくのであれば、若者によりフォーカスしたものを入れる必要がある。 例：若者に限定しない内容 「テーマ内容の設定」＝テーマが難しすぎると参加者が限られる。	P4~P5
・今までの議論のベースからすれば、第５期との関連で、若者が来れば、それ以外の世代も来るのではというところがある。	P5
・ワークショップの手法で若者の参加をより積極的に推進していきたいという側面はあるが、強調点はある程度押さえておく必要があると思う。	P5
・市民参加をあらゆる世代で全体的に進めているという観点から、あまり「若者の」というふうに特定の年代層に絞る必要はない。	P7
・若者や年寄りのような線を引かないで、どこの人にでも、というのがよいと思う。	P11
・市民参加の一層の推進のためにという間口が広すぎると思う。	P21~P22
（テーマの内容設定について）	
・タイトルが堅苦しいと、参加率が下がる。	P6
・とがったテーマの設定は、ディスカッションを盛り上げる工夫の１つで、物がいいたくなるようなテーマもいいと思う。	P10
・提言では抽象的に出ることが多いので、例示のような形で、示すのはどうか。（例：居場所づくり）	P19
・実際にみんなが悩んでいることや困っていることをテーマに実施すると、人が集まる。そこから、実際のかたいテーマに結びつけていくようなやり方が有効だと思う。	P19~P20
・テーマの例示として、商店街の活性化についてはどうか。	P22
（広報の仕方について）	
・市報でやるだけではなく、他の方法を考えた方がよい。	P7~P8
・市報や施設に設置しているチラシは、大勢に向けた情報のため反応しないが、自分のところに直接言われたら、行くという層は割とまだいると思う。こういった層に呼びかけるために、例えば無作為抽出で案内の送付や学校に配布とか。	P8
・市長と若者が直接話し合う機会があるようなイベントだと、学校にも言いやすいと思う。	P8~P9
・駅でチラシを配布するとか、呼びかけを行っても目的	P9

があって駅へ向かう人を止めることは難しいと思うが、お祭り等のイベントで、立ち止まっている方へ向ければ、何か聞いてもらえるかも。聞いてもらう人は市長で。	
・チラシのキャッチフレーズは、漢字が多いものではなく、平仮名を使って訴えるのはどうか。	P9
・チラシは、絵やグラフが書いてあるものの方が、見る気がしてわかりやすい。役所の作成するチラシは難しい。	P11
・チラシは、口コミや直接勧誘と比べると効果があまりないと言われている。	P11
・チラシは、公共施設に行くとすごい数がある。	P11
（ワークショップの成果について）	
・ワークショップに参加しない層を向かせるような提言あるいは仕掛け作りをしていくことが肝だと思う。	P7
（その他について）	
・「市の職員がファシリテーションを行う」について、お金をかけないほうがいいという話ではなく、市の職員の教育にもなるからいい。	P5
・市民の方と話すことは、職員のスキルが高まるため、そういった機会は増やしていければと思う。	P6
・入りやすい入口を用意するため、おもしろいや楽しい空気感を演出する必要がある。	P22
（会場について）	
・会場は、その施設自体が知られていないとより一層集まりにくい。	P8
・ワークショップは会場を設定しているが、意見が欲しい側がそういう場に出ていくスタンスが必要かなと思う。出前ワークショップのように、出ていくほうが市民も構えないため、意見のもらい方のスタンスとしてどうかと思った。	P9
・以前、市の職員が公民館で活動している団体に向けて、活動中にごみの関係で呼びかけを行っていたことがあり、とても分かりやすく、楽しい説明を聞くことができた。出前をするのはいいと思う。	P10~P11
（その他全体的な意見について）	
・争点がぼやけているため、ポイントを押さえて表現しなければ伝わらない提言となると思う。	P5
・市が市民参加を進めていく中での新しいツールとして、ワークショップがなぜ今後有効であるのかをもう少し積極的に打ち出してもいいと思う。	P5
・ワークショップの手法は、市民や職員のさまざまな形の学習機会の提供にもなるため、若者だけのメリットではない。	P6
・どういうときに使ったらワークショップが有効なのか。	P6

・あまり限定せずに、広く参加していただくために、ワークショップに来るモチベーションの高い人ではなく、どちらかというと低い人を引っ張る施策が推進会議で求められる方向性だと思う。	P7
・若者が参加しやすいワークショップをポイントにすると、若者とその他のご意見番という形で討論会もできると思う。	P10
・市と市民の交流できる、車座集会を作ったらどうか。市長だと構えてしまい、何かいってやろうという方が多くなってしまうが、市の職員と話をする機会はないと思う。雰囲気づくりとしては、集会所でも椅子ではなく、畳のあるところでざっくばらんに話せたら、かたい話はなかなか出ないと思う。	P11~P13
・前回の具体的なワークショップの政策立案ではなく、土台として仕組みを作ることは重要だと思う。	P14
・ワークショップは具体的な政策について、結果として意見が分かれても問題ないが、ある程度、方向性を共有する機会となる。そこで出た意見について、職員は使える。基盤づくりと具体的な内容の三段構えの提言をまとめたらどうか。	P15
・若者対象（２５歳まで）の市長を招いた未来会議があり、そこでは、市政に対する要望も非常に出たが、ざっくばらんに話していた。若者も、市に対して思っていることを言えた。車座集会ではないが、よかったと思う。コーディネーターは、「若者と政治をつなぐ」をコンセプトに活動している NPO 法人の方が行っていたので、議論は進んだ。	P15~P16
・人数が少ないということは、気にすることではないと思う。	P16
・人数は少ない方が、何度でも意見を言える環境が作られるため、議論がしやすくなる。多くの方の考えは、少ない人数だと格好がつかないと思っている。	P16
・土台づくりで考えると、少人数でざっくばらんに言いたいことを言うというところだと思う。また、利害関心や利害対立がある意見を言うときの基盤にもなる。	P16
・現状、出前講座があり、幾つかのテーマから選び、市民の要望で実施する機会はある。職員が市民の集まっているところに出かけるというシステムとすれば、出前講座になる。活用するためには、一定のルールがある。	P17~P18
・出前講座は、交渉の場や要求の場ではなく、現状と今の考え方を説明し、意見を聞いて受け止める場となる。	P18
【整理と次回の予定について】 ・タイトルについては、今回出た意見を基に、再考する。 ・テーマの内容設定については、入りやすくするためのいろいろな演出、楽しい雰囲気を工夫する必要がある。相談しながら、期限についても書き込むことも考える。	P22

・その他、車座集会や学習会的な要素について、出前講座の参加を促進するあり方についても参考にする。 ●資料１のスケジュールのとおり、今回出た意見を基に、正副委員長より提言の骨子案として、論点整理（案）を示す。これを基に、次回はさらに議論を行う。 ⑶　次回推進会議の開催日について ・２月から３月の木曜、金曜の中で日程調整を行った。 →３月９日午後７時からを第一候補とした。 ３　閉会	P23
【提出資料】 １　第６期推進会議スケジュール（案）～市のワークショップに提案～ ２　会議録（要点記録）より現在のイメージ図 ３　現在の提言イメージ（案）	

第４６回小金井市市民参加推進会議

日　　時　平成２８年１１月２５日（金）午後７時００分～午後９時００分
場　　所　前原暫定集会施設　Ｂ会議室
出席委員　１０人
委 員 長　西　尾　　隆　委員
副委員長　渡　邉　大　輔　委員
委　　員　一　山　稔　之　委員　　佐久間　博　子　委員
　　原　　久　子　　委員　　三　輪　茉莉香　委員
　　五　島　　宏　　委員　　中　村　彰　宏　委員
　　天　野　建　司　委員　　中　谷　行　男　委員

事務局職員
企画政策課長　　三　浦　　真
企画政策課係長　　古　賀　　誠
企画政策課主事　　髙　橋　奏　恵
企画政策課主事　　齋　藤　彬　子

傍 聴 者　　０人

（午後７時００分開会）

◎西尾委員長　皆さん、こんばんは。もう年末のような寒さですが、本日も遅い時間に集まっていただき、ありがとうございます。

今日は、大久保委員、山下委員がご欠席ということですが、市民参加条例の施行規則第２４条で半数をもって成立いたしますので、第４６回市民参加推進会議を始めたいと思います。

今日も区切りのいいところで５分ぐらい、休憩時間をとりたいと思っております。

それでは、今日の配付資料につきまして、事務局のほうからご説明をお願いいたします。

◎事務局　それでは、資料の確認をさせていただきます。本日の資料は、事前に送付したもの３点となります。

まず資料１「第６期推進会議のスケジュール（案）～市のワークショップに提案～」、資料２「会議録（要点記録）より現在のイメージ図」については、それぞれＡ４、１枚の資料になります。そして資料３「現在の提言イメージ（案）」については、ホチキス留めされた資料で、今まで開催された会議内の発言等をまとめたものになります。提言をイメージしやすくするために作成したものになります。

事前に送付させていただいたものは以上になります。

その他、机上にお配りしています当日配付資料はございませんので、配付漏れ等ございませ

んでしょうか。委員長、お願いいたします。

◎西尾委員長　どうもありがとうございます。

それでは、次第の（１）今後のスケジュールについてから入りたいと思います。

事務局のご説明をお願いいたします。

◎事務局　それでは、説明いたします。資料１「第６期推進会議スケジュール（案）～市のワークショップに提案～」をご覧ください。

スケジュールについては、５月に開催されました推進会議でもお示しをさせていただいておりますが、現在の状況等を踏まえ、内容を更新させていただきました。

順番に、今後のスケジュールについてご説明いたします。

本日の推進会議は、今まで出た意見をもとに内容を確認、方向性、提言の仕方について確認が主な議題内容となります。今回お示しさせていただいています資料３「現在の提言イメージ（案）」をベースに提言がされていくイメージで連動している部分もありますので、そちらも見ながら進めていただければと思います。

続きまして、次回の推進会議のことについても順々に説明させていただきます。

こちら、来年の２月から３月の間に開催予定ですが、本日の推進会議で提言として入れ込んだほうがよい意見等をさらに追加し、正副委員長より資料３を校正していただき、論点整理（案）が示されるイメージになっております。提言の骨子案としてさらに審議をしていただきます。

次に、７回目の推進会議は来年の５月に開催予定で、年度が変わりますので、例年の附属機関等の調査報告を行います。附属機関等の状況について確認していただきますので、よろしくお願いいたします。また、６回目の推進会議で審議した意見を踏まえて、論点整理（案）の確定をしていただきます。

そして８回目の前に、６月から７月の間で市長へ提言書を渡していただきます。こちらは推進会議とは異なりますので、委員報酬は発生しませんが、正副委員長にはご出席していただき、委員の皆様も参加が可能な場合はご出席いただければと思います。日程は、直近になりましたら調整させていただきます。

最後の８回目の推進会議は、来年の７月に開催予定で、市長から提言の回答をさせていただき、第６期のまとめとして、第７期の推進会議へ引継事項としてご意見をいただければと思います。

資料１の説明については以上です。

◎西尾委員長　ありがとうございました。現在どのような動きをしているかという表ですので、ご確認いただければと思います。

ご質問等はありますでしょうか。次回は、提言のたたき台が出ますので、今日言いたいことは全部言っていただくことが大事なことかなと思います。

私は前期も委員長をやりましたが、大体このスケジュールと似ている形で進んでいきました。このようなスケジュールで進みたいと思います。

それでは、まだイメージがすぐ湧かないかもしれませんが、もう少し資料の説明をしていただきたいと思います。

次第の（２）に提言の具体的内容の検討について事務局からご説明をお願いいたします。

◎事務局　それでは、（２）提言の具体的内容の検討についてと関連しまして、資料２「会議録（要点記録）より現在のイメージ図」と資料３「現在の提言イメージ（案）」について、あわせて説明させていただきます。

まず、資料２をご覧ください。

こちらについては、今まで推進会議にて委員の皆様で話し合ってきました内容をまとめたものです。内容としましては、会議録の要点記録より抜粋させていただいております。

上から順にご説明いたします。第６期の市民参加推進会議の提案としまして、現在、若者の市民参加をより一層推進するための方策として、ワークショップの手法について委員の皆様からご意見をいただいているところです。

より多く意見がありました内容について、「テーマの内容設定について」「広報の仕方について」「ワークショップの成果について」「その他」という形でタイトルを表記させていただきました。それぞれのタイトルの下に記載があります内容は委員の皆様から出た意見となっております。

そして、資料の下部に委員の方の役割としまして、市民参加推進会議が主体となってワークショップマニュアルを作成することを考えるのではなく、若者の市民参加をより一層推進のためにどのような手法が有効かを考え、市長に提案すると記載させていただきました。ワークショップの手法について、今までもご議論されてきましたが、提言に向けてより明確にするために、今回このような記載をさせていただきました。

前回の推進会議でワークショップのマニュアル（案）を事務局から示すということでお話がありましたが、実際、ワークショップのマニュアルを推進会議で作成し、提言するとなると具体的すぎる内容となってしまうことや､推進会議の回数からしても時間が足りない状況となり、推進会議の提言の性質上からも難しいのではないかと考え、ワークショップのマニュアルの作成については提言をいただいた後、事務局に一任していただき、市民参加を推進するためのワークショップについて実施する際、どこがポイントか、何を目指すのかをご提案いただいたほうがよいと思い、こういった形で記載させていただきました。

資料説明に戻ります。資料３をご覧ください。

こちらは正副委員長からもご確認いただいた現在の提言イメージ（案）となります。実際に提言をどのようにするのか、イメージが湧きやすいように今回お示しさせていただきました。こちらは資料２の内容と連動した形にもなっていますので、二つを見比べながら資料の説明を聞いていただければと思います。

まず１ページ目は、市長宛ての提言の通知として、何について提言するのかが記載されております。

２ページ目から３ページ目については、まず提言のタイトルが初めにあります。「はじめに」と太文字で書いてある部分については、第６期推進会議での経過について記載されております。そして「１．提言」では、市民参加を推進するために、その提言が友好的である理由や提言のタイトルについての内容を記載していただきます。こちらについては、次回、委員長よりご作成いただく予定になっておりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして「２．具体的内容」では、資料２でお示ししたタイトルをそれぞれ記載させていただきました。資料３の具体的内容のタイトルに対する内容を、こちらも次回、委員長よりご作成していただきたいと思います。主な議題については、皆様から出た意見が記載されています。

そして「３．その他の課題」では、その他の市民参加に関する課題がありましたら追加する形にしていただければと思います。

資料の説明については以上になります。

◎西尾委員長　ありがとうございます。

形式的なイメージを持っていただくためにこういう資料を用意していただきました。何かご質問はございますか。

前回の提言は長めに全６ページで書きましたが、最終的に３，４ページ程度が良いかと思いました。意見がいろいろ出れば、それを書いていくことになるだろうと思います。

それでは、これからどういうことを提言していくのかという中身の議論をしていきたいと思います。資料２は、今までのいろいろな議論をイメージにまとめているわけですけれども、いかがでしょうか。

提言に資料２のような図は付けることはないですよね。

◎事務局　そうです。

◎西尾委員長　役所の作成するものは文章だけで、それの解説を１枚でプレス発表するときにこういうものを作ることが多いと思いますが、後々使えることが非常に多いと思いますので、イメージとして見ていただければいいと思います。

どんなことでも結構ですが、若者の市民参加をより一層推進するために、これは「より一層」という言葉があるということは、今もそこそこあるということでしょうかね。

◎三輪委員　「若者の市民参加をより一層推進するために」ということですが、若者に限定した提言の内容というものがそこまで、そればっかりではないように思って、この中では、例えば「広報の仕方について」の２つ目のポチで、若者の市民参加を促すため、学校へ直接呼びかけるなどと書いてあることと、ＳＮＳが絡んでいるところは若者に向けたところが大きいのかなと思うのですが、それ以外のところで、例えばテーマ内容の設定でテーマが難し過ぎると参加者が限られるといったことは、多分若者に限ったことではなくて、ほかの世代を考えても一緒で、その他の部分やワークショップの成果についてもそうなのかなと思ったので、若者だけというわけではないようなことがもうちょっと伝わるほうがいいのかなと思います。

◎西尾委員長　なるほど。若者からそういう意見が出ました。

◎三輪委員　それか、もっと若者にフォーカスしたものを入れなきゃいけないのか。

◎西尾委員長　そうですね。前の提言のところで、その理由について書いていますが、選挙のことでは投票率が低いというのもありますし、公募なども、どちらかというとリタイヤした人のほうが多いとか、それぞれ強調の仕方があるだろうと思います。タイトルもこれで決まりというわけではありませんが、今まではこういった議論がベースになっていたということです。若者が来れば、それ以外の世代もたくさん来るのではないかということかもしれないですね。

そのほか、どうでしょうか。

◎五島委員　いただいたこの資料を見て感じたことですけれども、ここで出ている意見を要約してここの中に入れているので、争点がぼやけちゃっていると思いました。もちろんこのままで出すわけではないと思いますが、ポイントをしっかり押さえるというか、本当に大事な肝のところをしっかり押さえて表現しておかないと伝わらないかなと思いました。

例えば、テーマの内容設定について、ちゃんと書くというか、広報の仕方もそうだと思います。何かこれは外しちゃいけないということを１つでもいいのできっちり書くことが必要なのではないかなと思いました。

◎西尾委員長　まだ骨組みも構造のようなものもフォーカスも何もないですね。平面に言葉がちょっと並んでいるというところだと思います。

それを今日は自由に議論しますが、次回には提言を固めていこうと思いますので、実質的に提言のことをイメージしながら多くのご意見を伺いたいということです。

例えば、その提言を見れば「よし、やりましょう」という気持ちになるような、提言が必要なわけです。

◎渡邉副委員長　最初に三輪委員からも、これは若者の参加のためだけの議論でしょうかというご提案があって、私もその通りだと思いました。もちろん前回の第５期との関連で、若者の参加をより積極的に推進していきたいという側面はあり、それがワークショップという手法であるという点は事実で、その点についての強調点はある程度しっかり押さえておく必要があるだろうと思います。

ただもう一つは、前回、ワークショップが実は小金井市では初めてだったということもあり、市民参加というのが、単に参加するだけではなく、市政にかかわるという意味で小金井市が市民参加を進めていく中での新しいツールとしてワークショップというものでどういった提言があって、なぜそれが今後有効であるのかといった点をもう少し積極的に打ち出してもいいのかなと感じています。

例えば前回、私は市の職員がファシリテーションを行ったほうがいいという話をしましたが、これは単にお金をかけないほうがいいという話ではなく、市の職員がファシリテーション能力を持って住民たちと意見を交わしていくということは、市の職員の教育にもすごくなっていくわけです。また同時に、ワークショップにおいて、市民の方々もそれぞれの立場やそれぞれの

利害、それぞれの意見がある中で、議論を交わしていき、市民自身も市政への関心を深めていくし、勉強もできていきます。つまり、学習機会の提供だと考えることができます。そうすると、ワークショップという手法はさまざまな形での学習機会の提供にも市民にも職員にもなっていくという点も含めて、単にワークショップって若者だけのメリットだけではなく、いろいろなレベルでワークショップという手法がいいのではないかと。

なので、市は前回が初めてだったということですけれども、今後、別に全ての計画にやれとは言いませんが、できるだけ多くの計画等でこういった手法を取り入れて、多様な形での市民参加を推進してほしいというような、なぜワークショップなのかというメリットを打ち出し、かつ、そこに若者が入ってきたときに、じゃあ、特に若者とかに興味、関心を持てる場合、テーマだったらどういうもの、広報だったらどういうものという形の２段構えでやっていったほうがいいのかなと感じています。

◎西尾委員長　市の職員の方から何かご意見はおありですか。

◎天野委員　市の職員がやればいいのではないかというご意見をいただきました。確かに市民の方とお話しをするということは､我々も非常にスキルが高まることだなと思ってございます。

市長も、どんどん市民と対話をしてほしいという話もありますので、今後、そういう機会を増やしていければなと思ってございます。

ワークショップをやってみた感想ですけれども、やはり、実施したことでの充実感があり、ワークショップの手法について現在検討していただいていることが、非常によいものと感じました。ただ、どんなときにでも使えるかという部分では疑問がありまして、今回は、計画策定というところで公共施設の計画を作るという中で、ワークショップという手法をやってみました。今ある公共施設の課題をたくさんの人に知ってほしいという思いがある中で、ワークショップの手法はよかったのかなという思いは持っています。なので、どういうときに使ったらワークショップが有効なのかというのは、今、思っています。

ただ、手法とすれば、参加してくれれば、その時間は非常に有効な、市民参加の満足感というのは得られる手法なので、そこからまた広がっていくという可能性も感じました。なので、あのときのやり方とすれば、個々具体的な話のワークショップだったので、どれだけ成果が今の計画に生かせたのかなという思いも持っています。

今、計画については、パブリックコメントに今後、入っていく段階になっていますので、どれだけご意見をいただけるのか非常に不安もあります。公共施設等総合管理計画（案）の市民説明会も実施しましたが、参加者が非常に少なく、中村委員は来ていただきましたが、非常に硬い内容でもあるので、先ほどのご意見でも、若者の参加だけでいいのかという部分を、非常に感じております。

市民説明会を立て続けに、（仮称）第５次男女共同参画行動計画の市民説明会と公共施設等総合管理計画（案）の説明会をやったのですが、非常に参加者が少ないという実態を目の当たりにしているということもございまして、若者の市民参加も非常に大事ですが、やはり多世代

の方が市民参加をしていただけるためにはどうしたらよいかということが非常に悩みです。

確かにタイトルが堅苦しいと、非常に参加率が下がりますが、イベントであれば、講演会や男女共同参画の催し物でもかなり参加していただけることもあるので、タイトルも中身も内容もですが、より市民が参加していただけるようなものを全面に出して、それと抱き合わせで計画も議論していただけるようなことも今後考えていかなければいけないと担当と話しています。

◎西尾委員長　どうもありがとうございます。

◎中村委員　この資料２の提言（案）のところで、三輪委員からもご指摘がありましたが、この提言（案）のテーマですが、これは若者の市民参加をより一層推進するためにとありますが、これは案ですから、どちらかというと、市民参加をあらゆる世代で全体的に進めているという観点から、あまり「若者の」というふうに特定の年代層に絞る必要はなく、先ほど天野委員もおっしゃいましたように、あまねくいろんな世代から参加してもらうようにという観点から、あまり限定するような文言は付け加えないほうがいいのではないかというのがまず１つです。

もう一つは、ここの表の右端に「ワークショップの成果について」とありますけれども、ワークショップに参加する人というのは、どちらかというと市民参加に熱心で、モチベーションとしては結構高い層だと思いますので、逆にワークショップに参加しないような層、あっちのほうを向いている人をこっちへ向かせるという意味合いから、やっぱりワークショップに来るような人は、どちらかというと、言い方は悪いですけど、ちょっと放っておいてもいいと思うんですね。ワークショップに参加しないような層をこっちへ向かせるというか、市民参加のほうに向かせるような提言あるいは仕掛け作りをしていくのが我々市民参加推進会議の肝じゃないかなと思います。

そういう意味で２つ、私のほうからご提案ということです。ただ、具体的にどうしたらいいかというのは、まだ私の中では模索中ですけれども、あまり限定せずに、あまねく、広く参加していただくというのが１つ。それから、ワークショップに来るような人はモチベーションが高いわけですから、そういうモチベーションがどちらかというと低い人を引っ張るような施策というのがやっぱりこの推進会議の中で求められる方向性じゃないかなと思います。

◎西尾委員長　ありがとうございます。

私も自分の地区の大沢というところで説明会に出たときに、市民より職員のほうが多かったですね。

◎中村委員　そのとおりですね。

◎西尾委員長　すごく来ているなと思って感心しまして、そういうことはよくあるかなという気もちょっといたしました。

◎中村委員　この前、市民に対する説明会に出席させていただいて感じたことですけれども、あれはたしか市の広報でもやりますということを、私も市の広報で見て、かなりいろんな世代、各戸配布ということで広まってはいると思うんですけど、実際ふたをあけてみたら、５、６名でした。ということで、やはりその５、６名については、当然意識も高いので、結構ポイント

を突いたような質問なんかも積極的に出ていました。

ただ、やっぱり市報でやるだけではなく、ほかの方法も考えたほうがいいような感じがしました。せっかく行政のほうで会場設営とかいろいろ準備されているにもかかわらず、あれだけの人数であれば、せっかく準備したのにもったいないなという感じはしました。そのためにもっと広報の仕方というのは、やっぱり市民参加においては重要じゃないかなというふうに私は参加して思いました。

◎西尾委員長　多いか少ないかというのは全く予測ができないものですからね。

◎中村委員　大体想像がつくところはありますが。

あと、会場は東小金井のほうにあるマロンホールというところで男女共同参画はやりました。会場自体が知られていないなんていうこともあり、より一層集まりにくいということは肌で感じました。

◎三輪委員　今、マロンホールが知られていないという話もありましたが、私自身、マロンホールの近くに住んでいますが、知らなかったというか、多分気にとめなかったのか、スルーしていましたし、私がこういう場に参加するようになったのも、たまたままちづくりカフェに参加したからというのがあって、結局、そっぽ向いている人を振り向かせるというのは多分一番難しいところですけど、その情報を手に入れていないというか、自分に対してこういうのがありますよと言われたら行くけど、別にただ大勢に向けた情報、例えば市報やそこら辺に置いてあるチラシは、そういった呼びかけには反応しないけど、自分のところに直接言われたら行くという層は割といるのではないかと思うので、何かそういうところに呼びかけるとしたら、例えば無作為抽出の案内の送付とか、そういったことになるのかなとは思います。

◎西尾委員長　そうですね。無作為抽出というのがありましたけれども、そのことも提案するかどうかですね。ちょっと予算もかかる話ですし、日当を払ったりするというやり方をやっているところも多いですよね。

◎三輪委員　無作為でなくても、学校とかで配ってもらえたらというところは、やっぱりあると思います。

物によると思います。例えば武蔵野市だと、若者と市長が直接話し合う機会が多分あると思いますが、特に具体的にこのテーマについてとかではなく、話せますという会が多分設けられていると思います。そういうのだったら学校でも言いやすかったりすると思いますし、場合によるとは思いますが。

◎天野委員　最近、武蔵野市長の話を聞く機会がありまして、邑上市長は、武蔵野プレイスで若者との対話のイベントを何回も行っており、駅前広場で市民と話合いをするということも行っていると聞きました。

◎西尾委員長　今はわかりませんが、話し合ったことが全部議事録になり、市政窓口で武蔵野市は無料で配っていますよね。

色味のない議事録ですが、読むとおもしろいですよね。例えば、大雪が降った時、コミュニ

ティーセンターでイベントを行っていたとき、お年寄りが慣れない手つきで雪かきをしなければいけなかったので、それに対して市民が、ちゃんと雪が降ったときの対応はコミュニティーセンターやってくださいって言いましたら、気持ちはわかるけどできないというふうに言っていたことがありました。武蔵野市はめったに雪も降らないし、コミュニティーセンターはそのための機材はあるかもしれませんが、除雪ができるようなスタッフを準備するということは、市民で考えくれというようなことを言っていました。両方理解できるという感じですけれども。

三鷹市も市長と語る会をやっていますが、あれは集まる人間を全部セレクトするんです。武蔵野市はフルオープンで誰が来て聞いてもいいというので、部長クラスも来ていると思います。意見があるときは、そういう提案を書いてもいいですよね。提案の中身はまだこれからですので。

◎三輪委員　話がちょっと飛びますが、例えば街頭でそういうことをするとなっても、駅で何か言っていても普通の人はスルーしていくと思います。何か目的があって駅に向かっているわけなので、基本的にそこで立ち止まってというのはすごくハードルが高いですが、例えばお祭りとかの待ち時間のときにそういうのがあれば、例えば東小金井でお祭りがありますけど、歯科大グラウンドでやっているお祭りで、花火のときは本当にすごく人が立ち止まっている状態なので、そういう場でなら何か聞いてもらえるかもしれないです。あと、阿波踊りも今度あると思いますが、そういう機会が、そういうところでならあるんじゃないかなと思います。

◎西尾委員長　ここで聞いてもらう人は市長ですか。

◎三輪委員　そうですね。何を聞いてほしいかということもあると思いますが、その担当者がそこにいるということは違うと思います。お祭りのときにそういうような雰囲気になるのかどうかわかんないですけど。お祭りじゃなくても、そういう何かで人が立ち止まっているときにというのはいかがでしょうか。

◎西尾委員長　武蔵野プレイスの構造は、会議室のようなものではなく、オープンスペースのようなところが何個かあり、そこで広報会のようなことをやっています。私が歩いているときに男女共同参画のテーマの報告を市民がしており、そこで市長も聞いていました。「お、市長がいる」という感じでしたが。

会議室だと、よほどのことがないと入らないですが、広場的な空間で行うと入りやすいのは、ちょっとした仕掛けですね

◎五島委員　中身の話になりますが、ワークショップの実施場所を会場で設定していますが、今の話を伺っていると、出ていって、こう話を聞く、そういう場に意見が欲しい側がちゃんと出ていくという、そういうスタンスが必要なんじゃないかなと思いました。ですから、チラシの上にあるキャッチフレーズが男女共同参画という漢字だけじゃなくて、何でそういうことをやりたいのかということを平仮名も使って訴えるとか、そういう呼びかけ方や意見のもらい方がいいと思う。出ていくほうが構えて待つのではなくて、多分ワークショップも、出前ワークショップって言っていいのかわかりませんけど、そういう意見のもらい方、手法じゃなくて、

何かスタンスじゃないかなとちょっと思いました。

◎西尾委員長　そうですね。市民活動団体が市民協働センターで集まって議論していますが、市民参加なんかあまり興味ないですという人も自分の趣味とか、何かの勉強会があって、そこに課長クラスの職員が来ることがあります。

そういうふうになるのは少し時間がかかるのではないかなという気がします。

◎佐久間委員　関係ないかもしれませんが、一応、若者が参加しやすいワークショップということをポイントにすると、その他の方というのは何かご意見番みたいな形で、若者対それに対するいろんなサジェスチョンする人みたいな感じで討論会みたいなこともできるのかなと思いました。

◎西尾委員長　なるほど。若者とそれ以外。

◎佐久間委員　そうそう、それ以外というか。そうすると、いろいろな意見が、市の方だけではなくて、そういう若者に何か言いたい方とかも逆にいらっしゃるかなと。

◎西尾委員長　何かテーマはありますか。

私は自分の授業の基礎科目で、元ＩＣＵの経済学の八代尚宏さんという方が書いたシルバー民主主義という本について学生に勧めていて、シルバー民主主義は例えば、若者は選挙へ行かないから若者に資源が投入されない、お年寄りはみんな選挙に行くし、高齢化対策として年金が積立方式ではなく賦課方式なので、若者は損しているという非常に皮肉な議論ですが、ディスカッションは割と盛り上がっていました。そのとがったテーマの設定は、工夫の１つかもしれません。何か情報提供すると、物が言いたくなるようなテーマですよね。

◎原委員　資料３に会議録が要約されていて、これ１枚で大体のことが理解できるようになっていて、これを作成した人に「すごいですね」と言いたいことが一つです。

それと、前も言ったと思いますけど、今、先生たちがおっしゃったように、公民館なんかを使って、いろいろな会が活動をしているわけですね。そこに出かけて行って、いろいろな話を持ち込んでいくというか、それが今ふっと思いついたんですけれども。

ごみを分別するって小金井で始めたときに、２人の市の職員が公民館の活動をしている団体に、「５分間、時間をください」と割り込んできて、いろいろなごみを背負ってきて、「このごみは何だと思いますか」、例えば燃やすごみとか、これはプラスチックごみとか、これだったらこうだとかと、いろいろな種類のものを持ってきて、これをこういうふうにしてほしいんですという、見ていて「へえ」と思うような楽しい説明をしてくれたんです。私は年寄りの食事会みたいなものがあって、そこで「みんなわかった？わからないことがあったら、聞きな」なんて言って。それから、また違う、例えば太極拳の会でも、「すみません、ちょっと５分ください」と、そこでもそういう話を聞いて、こういうこともあって、今じゃ、小金井の人はちゃんと分別をしていると思います。分別するといったときに、どれがどれだか理解できなかったわけですが、本当に、「えっ」と思うようなごみを背負ってきて、あれはやっぱり今の皆さんの分別をちゃんとできるような効果があったと思いますし、分別に意識がない人でも理解で

きたと思うんですね。やっぱり市の職員が外へ出向いて、そういうことをしたということは、私はすごく偉いなと思って。

だから、やっぱり自分たちで、若者とか年寄りとか、線を引かないで、市民だったら、どこの人にでも、「こういうことをやりたいけど、皆さん、どんな意見をお持ちですか」って、簡単に書類に書くのではなく、それこそ、そういうふうに出前して歩かれるといいんじゃないかなと思います。

◎西尾委員長　ごみは具体的に見えますからね。

◎原委員　この間のワークショップですけれども、絵やグラフは書いてあるので、チラシを見て、多くを話さなくてもわかるんです。私自身も持って帰って、みんなに「これどう思う？」って見せたら、「これ、よくわかる」「こういうチラシだと、見る気がするよね」と言っていました。

そこで話した、やっぱりお金がないのに、施設をどうこう言うよりも、そこらのアパートみたいなのを借りてやったらどうですかというような話をしたそうです。市長にとっちゃ、すごい効果があったと思うので。というような、この間のワークショップの感想と、ごみのことでした。

やっぱり役所の人の作成するチラシとかは難しいですよね。

◎西尾委員長　チラシは、口コミとか直接勧誘と比べると、あんまり効果がないと言われていますね。

◎原委員　やっぱり口コミだと思います。

◎西尾委員長　チラシは公共施設に行くとすごい数ありますよね。

◎原委員　もうチラシの時代は終わりましたよね。

◎西尾委員長　それも何らかの広報の仕方の議論だと思います。

特にどんなところからでも、思いつかれることをどんどん言っていただくといいかなと思いますが。一山さん、何かおありですか。

◎一山委員　ちょっとお尋ねしますが、小金井市は、市長を囲む車座集会はやっていらっしゃいますか。よく、いろいろな県知事さんとかが車座集会という感じでやっていらっしゃるようです。市民の方と直接向き合って、本当に畳の上で、テーブルを挟んでというようなことはやっていらっしゃる、あるいは現市長じゃなくても、昔の歴代の市長、そういうことはありましたか。

◎天野委員　今までは各自治会の代表が集まり、一堂に介して話をしていましたが、西岡市長の新たな取組では、どういう形でお話ししているのかわかりませんが、ブロック別に各自治会を回ったという試みをやっています。その後、全体会も開いて、そういった話合いもしたところであります。

それから、市の主催ではありませんが、市長と市民との対話を行ったということは聞いています。

◎一山委員　ありがとうございます。そうしたら、一応、そういうことをやっていらっしゃるのであれば、私自身は、前からこういう場に初めて出させていただいて思ったのは、直接、市の方と市民の方の交流できる車座集会を作ったらどうかと。やっぱり市長というと、みんな構えちゃうし、あるいは、何か言ってやろうとかという方は多いですが、市のいろいろな職員の方々と話をするという機会は、多分ないと思います。

ですから、小金井市が初めてかどうかわかりませんが、市の職員の方々といろいろな、ざっくばらんお話をする。そういう意味では、車座集会というのをやってみたらどうかと。大学では、東京経済大学さんが夜、昔から、あそこは２部を持っていらっしゃって、今はないですが、２部を持っていらっしゃった関係で、現在、１００周年記念館と呼ばれているようなところの地下で、市民の方と、あそこは缶ビールを売っています。その缶ビールを各自調達して、それで何か話をされていると。大学ですと、９時、１０時になったら出ていけというようなこともないみたいで。そこまで開けたことは、多分、市役所ではできないかもしれませんが、市の職員の方々と市民の方が交流を持つというのを、お仕事としてという感じでおやりになったら。夜働いたら昼間は代休で休まれるとか、そうしないと、やはりなかなか仕事は続かないので。というのが一つと、それから、先週の日曜日に、自分の勤めている大学で指定校入試というのがございまして、面接をしたら、判で押したように公務員になりたい。「えっ」と。経済学部なので、大半が金融機関か、あるいは公務員だということであれば、逆に、先ほどからの議論でもございましたけれども、市を代表するのは、市長もそうかもしれませんが、動かしているのは、やっぱり市の職員の方々なので、公務員の実際の仕事ってこうなのよって言いながら、それも車座方式か何かで、夜の６時ぐらいから、ざっくばらんに公務員をやりたい人という人で、なってみたい人ってやると、チラシを配るよりは、かなり効果がある。実際に仕事は大変ですよということをわかってもらって。

やっぱり若い人たちから、市のイメージに対して、大分、違ってくるのではないかなと。それを国公私立問わずやっていただけると、有能な人材の発掘になったりするのではないかと思うので、提言に入れていただけるかどうかわかりませんが、市の職員をもうちょっと活用するような、しかも、車座集会がベストかどうかわかりませんが、ざっくばらんに話ができて、かつ、いろいろな人の意見も聞けて、市の人が、実はそれを仕事でやっているというのは。

◎西尾委員長　ありがとうございます。

例えば大学の中で「公務員セミナー」はよくやっていまして、うちの大学は、あんまり公務員志望は多くないですが、公務員にならせたいという親は、かなりいますね。面接の仕方とか、いいんじゃないですか。

◎三輪委員　就活を終わったばかりの若者から言わせていただくと、ざっくばらんにと言っても、こっちは言いづらいです。とにかく言いづらくて。やわらかいものにしてもらったほうがいいかなというのがあります。

◎西尾委員長　やわらかいもの。

◎三輪委員　はい。もちろん、そういうのを意識しているところはあると思いますが、直接は絶対に就活につながっていないなということを、若者側も感じられるような場所にしてもらいたい。こういうことを言ってもいいのかなという思いと、あと、何を聞いていいかわからないということも出てくるので、ちょっと。

◎西尾委員長　なるほど。就活でやっている立場では、そうかもしれませんね。

◎一山委員　よろしいですか。３年生とか就活生の人は、こういうイベントに来ないですよ。やっぱり１年生、２年生で、あんまり何も考えていない学生の方が、憧れというか、公務員に関してのイメージが、安定しているとか、やはり営利企業じゃないとかということを思っているので、いや、実はこんなつらいことがあるというようなことも教えてあげたい。やっぱりやりがいはあなたが考えている、こういう別のこともあるのよというのは、やはり卒業生で公務員の方が来たときに、建設省とか、そういう人たちのところにすごく集まります。やっぱりでかい仕事ができるとか。あと、警察官とか消防士は、具体的に市民を助けていると実感できますし。それ以外のところというと、本当に少ないです。「そんな公務員、あったの？」みたいな感じなので。来ている人は、大半が１、２年生です。３年生は、忙しいというか、受験勉強に必死ですので、イベントをやってもあんまりうちの大学では来ません。学校の雰囲気にもよるでしょうが、そこまで言っていいのかなというぐらい、変なことを聞いていますからね。

　ですから、先輩公務員と語る会というのは、土曜日が多いです。それは若い人が多いので、やっぱり半分ぐらいは受験の話とか、あるいは仕事の話を聞いても、まだ入って２、３年ですと、答えられません。だから、むしろもっと違う立場の人が、ざっくばらんという言葉がよろしくなければ、本音で話をできるわけではないでしょうけど、公務員の仕事を誤解している人があまりにも多いので。雰囲気づくりとしては、集会所で椅子もなく、みんなで座ってしゃべっていたら、多分、かたい話はなかなか出ないじゃないかなと。単なる私の感想です。

◎西尾委員長　畳というと、どんな集会所がありますか。武蔵小金井駅北口の上之原会館は畳がないですか。

◎事務局　畳があります。

◎一山委員　いや、大学の中でも、カーペットを敷けば畳みたいなものですから。活用スペースはいっぱいあります。

◎西尾委員長　これ、どうですかね。私もおもしろい案かなと思っていますが。主催がどうであるかとか、議題がどうであるのか、広報等いろいろあると思いますが、職員が市民と会うというのはどうですかね。

◎一山委員　最初はパイロットプランで、ほんの少し。この前のワークショップみたいに一回やってみて、これはまずかったなとか、いろいろあったりするので、おのずと収斂していくと思いますけど。

◎西尾委員長　ワークショップは、予行演習もされたということを聞いています。

　ただやるという考え方ですね。シンプリー・ドゥとか、シンプリー・コネクトとか、英語で

はそういう言い方をするのは、考えると難しいです。多世代をあわそうとすると、図書館で、イギリスでシンプリー・コネクトというのがあったのは、お年寄りが来て、若者とどういうふうに交流させるかというのは、仕掛けを考えるのも難しいから、シンプリー・コネクトという言い方をやっていましたけれども、何かそういう程度で始めるというのも、一つの考え方かなと思います。

だから、広報もしなくちゃいけない。そうすると、タイトルもつけないといけない。集まって来た人間は、何らかの期待で来るから、少し応えるために情報提供といいますか、お勉強みたいなものの要素が少しあったほうが始まりやすいと思います。あとは、成り行きでとかですね。

ごみの話もおもしろいですね。ごみの分別って、コミュニティーセンターでやって、うちの息子が喜んでやっていましたけど。

◎渡邉副委員長　今の議論はどちらかというと、土台を作ろうという議論だと思います。小金井市に限りませんが、市の職員があまり現場に出ていかなくなっていると思います。それは単純に忙しくなっていることが、すごく大きいという側面がありますが、もう一つは、市の職員が出ていっても何をするべきかわかっていないという現実問題があり、対話をすると我々はよく言いますが、現実問題として、対話が何かわからない。

実は、対話というものはそんなに堅苦しいものではなく、お互いが思っていることを聞けばいいという感じですが、多分、職員側として、そこでまず身構えるのは、そこは確実に要求の場になるだろうということが想定され、要求の場であることには、何らかの形で、目の前にいると答えなければならず、そのことが結構つらいからやりたくないという、わかりやすい現実的な状況が起きると想定できます。つまり、職員側の意識の問題が大きくて、上司側がそういうところに行くことの意義がどういうものであるのかということを正当化してあげる必要性があるのです。かつ、それがなぜ今土台だと言ったかというと、例えば前回の具体的なワークショップのような政策立案ではなく、それが距離を縮めると言われるものの土台として仕組みを作っていくことは、すごく重要なのかなと思いながら聞いていました。

例えば先ほどの車座集会とか、あるいはタウンミーティングとかでも、そこで市長と対話したから、市長がその意見を採用するかといったら、採用しないですよね。ですが、なぜ重要かというと、それが市長と市民との距離というものを象徴的に示すから大事であって、市長がそこでどんな意見を言われても耐える人間でないと、だめだというふうになってくる。同じように職員側も、多分、今後求められていく職員で、もしも本気で対応していくことを考えていくのであれば、そういうことができる人間じゃないと、職員にはなるべきではないし、あるいは、それをすぐにやってくれというわけじゃなくて、そういうことを求めるようなことを、いろいろな形で教育機会を作っていったほうがいいんじゃないのかな。我々の提案でやって、１年後に変わるのであれば、世界中、変わっているわけで、多分、１０年間ぐらいかけて、これは変えていく話なので、まず、土台づくりをやっていく側面を考えていくことが一つです。

もう一つ、今、ここで上がっているものは、もう少し具体的なワークショップの話も入ってきているので、これは上流の話ですね。上流として、もう少し各論的なというか、もう少し具体的な政策の意見を、これは、どちらかというと、意見が分かれるような政策の話の次元があります。対話は、コミュニケーションと距離感の話ですが、ワークショップというのは、もう少し具体的な政策について、意見が分かれるものをお互いが意見の対立構造なんかを学びながら勉強して、かつ、方向性は共有し、結果として意見が分かれるのは全然問題ないけど、ある程度は何でこんなことになっているのかということの方向性だけは、せめて共有していくというための、学習機会であったり、意見の吸収機会であったりします。それは先ほどご意見が出たように、そこで出た意見というのは、むしろ職員は使いやすくなるので、結構、使っていくという構造が､先ほどのアパートの話じゃないですけれども､出てくるという点で使えるので、今のお話を伺っていると、基盤づくりの話と、もう少し具体的な話。例えば、若者がもし入れるならどうするという、さらに若者が参加しやすいオプションとしては、こういうものがありますよという、三段構えぐらいの提言を、我々としてまとめていったらどうなのかなと思いました。

◎西尾委員長　ありがとうございます。

ここら辺で､5分くらい休憩しましょうか｡最後に少し項目の確認をさせていただきますが、自由に、まだまだ話を広げていただいていいと思います。

（　休　憩　）

◎西尾委員長　５分たちましたので、再開したいと思います。意外と休憩時間のほうが、実質的な話をされていましたね。せっかくですから、今、話をされた市長を招いた市民会議についていいですか。

◎中村委員　私、市の貫井北センター「きたまちセンター」を運営しているＮＰＯ法人の役員もやっていますが、先だって西岡市長を招いて未来会議というのを行いました。それは対象の世代は若者ということで年齢制限がありまして、２５歳までですが、私も実は参加しました。

市政に対する要望も非常に出たりしましたね。結構それが、手前みそかもしれませんけれども、よくある陳情とか、そういう形じゃなしに、割とざっくばらんな感じで、それぞれが市に対して思っていることを言えて、あるいは市長も、今の進んでいる中で、例えば施設の一体化とか、そういう若干突っ込んだ話なんかもされて、そういう意味では、車座じゃないですけれども、よかったのではないかなと思っています。

それも、残念ながら人数は少なかったです。とはいえ、若者が結構頑張っているなということで、高校３年生と、大学１年生、それぞれ男女１人ずつが頑張ってオーガナイズして、若者は数人集まっていましたね。５、６人ぐらい。我々みたいな２５歳より上の者もいましたが。

◎西尾委員長　全部で何人ぐらいですか。

◎中村委員　全部で１０人ぐらいでしょうか。そういう中で、市政に対する割とフランクな感じで会合が持てたのではないかと思います。企画している若者は、割と力が入っていまして、

立派なカラーのパンフレットを自分たちで作って、それは手弁当なんです。市のお金を使わずに、手作り感がありました。

あと、コーディネーターは、かなり有名な人が来られました。ＮＰＯ法人の Youth Create の代表で、原田謙介さんはご存知ですか。この方は、よくテレビにも出ている人らしいです。この方がコーディネーターで、Youth Create というのは、「若者と政治をつなぐ」をコンセプトに活動しているＮＰＯ法人で、若者が政治に主体的にかかわること、若者を社会の担い手の一人とする仕組みづくりを行いますと。その人は、文科省、総務省の政治や選挙等に関する高校生向け副教材作成委員、岡山大学講師、実践デモクラティックラーニング、グリーンバード中野チームリーダー、中野区社会福祉協議会評議員と、そういう人がコーディネーターをやったんです。割と議論は進みましたね。そういうことをやりました。

◎西尾委員長　どうもありがとうございました。

人数が少ないって、そんなに気にすることはないと思います。いろいろなものに出ていると、主催側のほうが多いことは、何度も経験しています。アメリカでも、そういうのはありましたね。歴史家が来て、プリンストンという町の歴史を話す会でしたが、私、何に感動したかというと、聴衆がわずか数人なのに、１００人に対してしゃべるように話していて、その根性というのは大事だと思いました。どんなに少なかろうが、多かろうが、大事なことを伝えるのが自分の役割だというような。

よくイベントで動員をしますが、人がいないと格好がつかないこともありますが、少ないときもありますので、場数を踏んで慣れていくのが大事じゃないかという気もしますね。

◎渡邉副委員長　人数の問題は結構大事で、少ないほうが議論しやすいんですね。確実にそうで、少ないほうが何度でも意見を言えますし、議論は絶対に盛り上がります。ワークショップをなぜ小さく分けるかというと、何度でも意見を言える環境を作るためですが、多分、多くの大人の考え方は、１０人しか集まりませんでしたというのは格好がつかないと思っていて、それは本当に矛盾したことです。だから、少人数でも、おそらく土台づくりには非常になっているということは、もっと認識して、１００人呼ばないと成功じゃないです、といったような数値目標ではないということを考えたほうがいいでしょうし、もしかしたら、今の未来会議というのも、１０人だからこそ市長も言えるでしょうし、これは若者だからとは限らないと思いますが、もしかしたら、陳情だったかもしれませんが、多分、そういった認識じゃないからこそできるディスカッションというのは確実にあって、そういうものを増やしていかないといけないと思います。むしろ大人になればなるほど、どうしても利害関心が先に立ってしまうので、みんな身構えちゃいますし、それだけは言わなきゃとなっちゃいますが、土台を作るというふうに考えるのであれば、むしろ少人数でざっくばらんに言いたいことをお互いが言うというふうなところ。その回路が、後の、どうしても言わなければいけない、利害関心とか利害対立がある意見を言うときの基盤になりますし、また、そのときに、でも、どうしても利害対立すると、どっちかが、誰かが折れなければならないときに、仕方ないよねというふうに、この人たちが

言うなら納得するという形の、基盤になっていくので、人数が小さいというのは、むしろ私はありなんじゃないのかなと思ったりしています。

◎西尾委員長　主催はどなたでしょうか。

◎中村委員　言い出しっぺは、貫井北センター「きたまちセンター」は公民館の若者関係をやっている職員で、伊藤さんという女性が頑張って活動していまして、その方が若者と相談しながら、きたまちサポーターという若者の組織がありまして、その若者が自主企画ということで、市長と未来について語ろうという企画をたてました。

補足させていただくと、大体２時間ぐらいでしたが、テーマが多岐にわたり、はっきり言って２時間じゃ、そんなたくさんのことを突っ込んで話せないので、今後もっとやりたい、また次回やりたいなという雰囲気で終わった会議でありました。

◎西尾委員長　いいですね。

◎中村委員　かなりテーマが多岐にわたっていて、今後どうするか、未来をどうしていこうかというテーマで、市長も、一席ぶって帰られました。

◎原委員　やっぱりそれも初めは個人的に公民館に来る子どもたちに声をかけて、興味を持った若者には、応援してあげるからねという感じで、貫井北センター「きたまちセンター」の伊藤さんのような人たちがよいしょして、一緒にどうしたらいいか考え、若者は仲間を呼んで、ビラづくりとかやっていました。だから、また続くんじゃないですか。初めは個人的に、やってくれそうな子ども達をピックアップしたりして。

◎西尾委員長　市長は、どちらかというと、休日はどこへでも出ていくことがあると思うので、自由ですよね。職員を呼ぶという場合は、何か仕組みが必要ですか。例えば友達で、私の授業に来てくださいというのは、個人ベースでも問題ないと思いますが、職員に、市民のあるグループが特定の話をしてほしいと言った場合、何かルールが必要でしょうか。

◎天野委員　仕組みとしては、現状は出前講座というのがありまして、この事業は生涯学習部のほうで所管しています。幾つかテーマはありますが、この中から選んでくださいということで、ごみの分別ですとか、安全・安心の講座ですとか、市民の要望で行う講座があります。以前は、財政問題ということで、小金井市の家計簿のようなテーマで話をしたことがあります。なので、職員が市民の集まりに出かけるというシステムとすれば、出前講座ということになります。

◎西尾委員長　なるほど。それは、どんなところに呼ばれても職員は行っていいという感じでしょうか。

◎天野委員　市民の活動団体のような出前をする人には、一定のルールはありました。

◎西尾委員長　なるほど。私も地方自治論を教えているので、時々授業で呼ぶことがありますが、やはりプライベートとして半休をとってくる人がいます。まず、依頼状をくださいという人が時々いますね。

◎中谷委員　天野委員が言われたようにルールがあります。出前活動のテーマがピックアップ

されているので、そのテーマに沿う該当の担当職員の話を聞きたいということで、業務として行くことになります。委員長が話した内容ですと、例えば、自分の体験を話してもいいよということであれば、休暇をとって行く分には構わないけれども、その場合についての身分をどうするかというのは非常に微妙になります。責任を持って、市のことを話すということになると課題になると思います。

なので、先ほどからお話に出ている市民と職員との対話、車座集会という話になったときにも、業務として我々が行かせるという話になると、それなりに責任がどうしても出ますし、送り出すほうも、行く職員のほうも、そういうことになってしまうと思います。ざっくばらんにといって、私が総務部長ではありませんということで行って話すと、逆に意味ないだろうと言われてしまうと、何しに来たのかという話にもなると思いますし、そうすると要求の場になってしまい、答えなきゃいけないというプレッシャーが入ってしまいます。そこの兼ね合いについて、どのようにその職員が耐えるかという話はやっぱり出てくると思いますので、非常にいいアイデアだとは思いますが、その場合について、今言われたルール化みたいなものもあわせて、課題としては残ると思います。方向性として、テーマとしては非常にいい形だと思います。

◎中村委員　そういう意味で、例えば縛りを設けて、陳情の場ではないというふうに明言しておいてもいいんじゃないですか。

◎中谷委員　いつもそういうふうになりますが、やはり出前講座に行っても、意見を言うのは、自分たちの熱い思いがあり、そちらでぜひお願いしたいという、その人にとってみると、それは陳情ではありません。自分の意見を申し述べる場であって、答えが返ってきたものが、その人にとってみると、対話であって、そこがいい協議の場だったというふうに総括をその人はされるわけです。そうされることがどうなのかということのテーマごとに、一つずつ出てくるというのは非常に難しいです。よく我々も、今日お話に来ているのは、別に交渉の場や要求の場ではなく、現状と今の考え方を説明し、意見を聞いて受けとめるという場だと思っています。私も出前講座に障害者自立支援法の関係で行きましたが、やはり親御さんたちにしてみれば、法律の是非から始まり、制度、政策についての話から、市は何してくれんだというところにやはり行きます。しかし、そこで一職員と話したところで何か出てくるものじゃないとわかっているので、それはいいと思いますが、今やろうとしている市民の声を聞くということでいくのであれば、今話し合っていますテーマややり方というのは、一つの突破口としてはあり得る方策だろうなというのは聞いていて思いました。ただ、今もやもやしているのは、それができるのかなということです。

◎西尾委員長　今はツイッターとかもあり、あれは危険なところもあって、世の中のニュースで、議会はすごいですよね。議会についてのコメントはなかなか難しいところがありますね。

自由に意見交換するところだというのに、そういう集まりでは、あまり際どい話は外で言わないみたいですね。とにかく、いろいろアイデアがあるので、できるだけ具体的なものを出して、ルールが必要なものはぜひ考えて、実現に向け、乗り越えていただければと思います。

今までなかったようなことでも結構ですけれども、どうでしょうか。ワークショップということが、今、提案の中にあります。それから、車座会議みたいなものもありますし、どれくらいの頻度で、どういうテーマでやるかです。この前の提言では、段階を経ています。最初は、とりあえずワークショップのようなことをやってみようと。それから、長期的には、基本計画に組み入れるようなことを１、２年の間の課題として、地域の個別テーマについて話し合うための若者中心のワークショップというのが一つです。それから、３年から５年以内にやることとして、仮称若者討議会というものを定着させるということでした。３番目に、６年から８年先ということで、長期計画ですね。中に若者分科会を設置するということは提案しています。このときは、具体的なリアリティーを持っていませんが、提案の中では、多少、具体的な項目も必要かなと思います。

私、個人的には、自分が経験しておもしろかったのは、まち歩きみたいなものですね。かなりいろんな機会がありましたね。都市計画だと、そういう専門家が大体来ていますね。

◎三輪委員　大学には、そういうところを授業の一環では結構あります。

◎西尾委員長　阪神・淡路大震災の後に割とありましたね。危険な区域や道が狭いところをみんなで歩いていき、危険だというところは車が入ってこないので、実に住みやすいところだとわかります。消防車もなかなか入れないような小さい通りがたくさんあるところとかですね。それから、都市計画関係で、都市マスを改定するようなときですね。市の職員からは、学生を参加させてくれという依頼が来ます。私も一緒に歩いたりもしますが、とにかく歩きながら何でも意見を言ってくれというと、山のように出るらしいです。

◎三輪委員　でも、そういうところに行くと大体、歩いている人たちの中で、ここは悪いと思いながらも、例えば細い道でも風情があるとか、対立項も出てきて、結局しようがないのかというところに落ち着いたりもするでしょうし、ここは絶対に変えなきゃいけないというところも、その逆で出てくるとは思います。

◎西尾委員長　今の話で、市民が一枚岩ではないというのを確認しますよね。市民同士の中にいろいろな多元的な意見があるのを知るのは非常にいい機会ですよね。若者会議みたいなものがおもしろいのは、そういうところだろうと思いますね。

テーマはどうでしょうか。「テーマの内容設定について」という項目がありますが、こういう提言というのはちょっと抽象的に出ることが多いので、やはり例示のような形で、例えば、居場所づくりとかですね。

男女共同参画は、おもしろい点もありますか。

◎天野委員　先ほどおっしゃっていたように、漢字で「男女共同参画」とやると、なかなかつまらないということがあります。

ただ、例えば女性が活躍するためには男性も家事をやらなきゃいけないという点や、実際に困っているようなことをテーマに講演会を実施すると人が集まるので、今悩んでいる子育てや介護のテーマを男女共同参画というより、誰もが輝けるような社会をということで話を持って

いくのは、１つのやり方ではないかと担当とも話をしています。やはり、かたいタイトルよりも、もっと身近な、自分やみんなが悩んでいるような問題をテーマにして、そこから人権だとか男女共同参画に結びつけていくようなやり方が有効だと思っています。

◎西尾委員長　なるほど。みんなが抱えているような問題ですね。

◎一山委員　テーマの内容設定ですが、小金井市は大規模災害に、どういう形で市民を守るとアナウンスされてらっしゃるでしょうか。ホームページでもなかなか拝見できず。

◎中谷委員　ＰＲ方法ですか。

◎一山委員　ＰＲというか、市のホームページを見たときに、これだけ頻繁に地震が起こっていますし、それから南海トラフもありますので、やはり小金井市が、この辺で何かあったときには、東京都の出番とか国の出番を待つよりは市で、比較的面積が少ないので、どういうことを想定されて、小金井市が中心になってやるのか、それとも各自で頑張って生き延びろと言われるのか、その辺は何か持っておられますか。

◎中谷委員　小金井市では、現在、防災マップを新しく作成し、最新の情報を入れたものを全戸配布することで皆さんには周知をしています。それに実効性があるかという話になりますと、我々としては、防災マップを見ていただき、自主的に避難していただくという話になってしまうのが現実的なところになると思います。

あとは災害の想定を、細かく想定し、マニュアル化してお知らせをするというのは非常に困難になりますので、規模や場所、例えば小金井市域は狭いですが、東と西で極端に分かれているといったとき、真ん中にいる人は何をするのかということまで聞かれても、当然答えられなくなってしまうこともあるので、そこは日ごろの訓練で、皆さんで磨いていきましょうという話をするのが現在の状況になっています。

◎一山委員　なぜお伺いしたかというと、小金井市も消防団がありまして、団員がかなり少ないのと高齢化している。ぜひそういうことであれば、女性の消防団員もそろそろいいのではないかという気もするんですが。

というのは、私の教え子が、女子なんですけれども、東京消防庁に入っていまして、ハイパーレスキューに入りたいということで入ったんですが、今のところ、ハイパーレスキューは女子がだめなんです。消防士としてはやっています。だから、消防士というお仕事も女子がだんだん、彼女の話では聞いていますので、だったら消防団も、おじさん、若者限定ではなくても、男女平等の意味で、市を守りたいという方がいらっしゃるわけですから、そういうことも踏まえた上で、大惨事が起きたときに、あるいは火災が発生したときに、小金井市は女性の、やっぱり火事の現場ですと女性ならではということもあるでしょうし、それからシルバー人材をもっと使ってもらって、６０を過ぎた人は要らないとかじゃなくて、元気な人もいらっしゃるわけですから、そういうのと市がかたく作っていらっしゃるのが、どこかで接点があればというのが、小回りがきく小金井市ならではできるんじゃないかと。

派手なことをやる市は派手なことをやっていらっしゃるし、大きなことをやるんですけど、

小金井市のいいところは、面積も小さいし、やっぱり市が一つに、センターにまとまっていって、あと目が行き届くところを生かしていただければと思って、消防団を一つの例としてお伺いしました。

◎中谷委員　消防団については、小金井市は男性の団員しかいませんが、全国的に見れば女性の団員がいらっしゃるところも当然あります。まさにここは議論している途中でもありますので、女性の男女共同参画テーマということで消防団を捉えていくというのは、議論の起こし方としては、ありかと思います。

それと、参加する人はモチベーションが高いため、例えば男女で育児や家事を分担するといったときに、どこに聞きに行くかというと、例えば男の料理教室をやっている公民館講座に行き、男女共同参画という言葉ではなく、違う視点から、聞く場所や対象を変えて意見を引き出すのであれば、テーマ別の意見が聞けると思います。

先ほどの消防団に戻りますと、市で実施している総合防災訓練や水防訓練をやっているところに、町会・自治会の方や近隣住民の方も来られますので、例えば、女性の視点から話を聞いてみると、一般に投げかけるよりは、リアクションが少し期待できるかとも思いますし、テーマ別に工夫をしていくというのも、意見を吸い上げるという意味では、一つの手法であるかと思いました。

◎一山委員　ありがとうございます。

◎西尾委員長　アメリカで、９９％は消防のプロだという話がありました。基本的に男の仕事ですね。軍人や消防は、よく男女雇用平等ではなく、生命平等の委員会を作るべきだという意見があり、危険な仕事はほとんど男であるという実態があるといいます。なかなかおもしろいテーマだと思います。

◎一山委員　自衛官にも女性の教え子が行っていますので、自衛官よりは消防のほうがまだ危険度は若干低いというのと、やはりこれだけ男女平等といろんなことを言っていますので。

◎西尾委員長　いろいろ議論していると、楽しいイベントができるんじゃないかという感じがしてきますね。

◎原委員　やっぱり市民参加の一層の推進のためにという間口が広過ぎると思います。この間のワークショップは、結論としては、どうも財政問題をどうするかみたいな説明会みたいだったと私は思っていますけど。だから、やっぱり自分に関係のあることならどの人でも興味を示すと思います。例えば崖の上に家があるから、崖崩れのときはどうしたらいいという話をしたら行くと思います。私に全然関係ないと思ったらチラシもふーんという感じですが。だからもう少し、先生がおっしゃったように、テーマごとみたいなのでもいいんじゃないかと。

きたまちのロビーは、年寄りが行っても座るところがないぐらい本当に宿題しているような子ばかりなんです。バレンタインのお返しのケーキづくりをやろうと言ったら、高校生が男女問わず、２０人ぐらい来たかな。私が教えましたが、お金がかからなくて、早くできて、おいしいもので。行政がすると、そこで謝礼が出ます。楽しかったし、材料はうちで取引している

人に「こういうのをやるから出して」と無料で出してもらって、お金のかかることはないからと言って、それは要らないともらわなかったですけど。

司会者を呼ぶにしても、個人の知り合いなら大体無料で来てくれます。知り合いがいたら知り合いを探して。でも、行政が呼ぶと講師謝礼ですごくお金がかかるわけです。

その他、「バレンタインのお返し、何か決まった？」と言ったら、そういうのを作ろうということになって、「じゃ、私も行く」って集まっちゃいました。だから、そういう身近なことから話をして、親しくなったら「今度どう？」とか「こういうのをやろうと思うけど」と声をかけていけると思う。公民館は特にそう。

◎西尾委員長　例えばなんですが、うちの大学の外国人は好きなんですが、商店街の活性化というのは話題になり得ますか。大きなスーパーには興味がなく、古い商店街に何か日本の昔が残っているようで、よくそういうテーマで議論をします。

こういうテーマは、尽きることがないぐらい多くのテーマがあるというので例示してもいいと思います。

◎五島委員　前も言ったことがあるかもしれませんが、入りやすい入り口を用意してあげるという意味で、おもしろいとか楽しいとか、そういう空気感を演出する必要があると思います。もちろん広報もそうだし、当日の場もそうですし、そういうことに配慮するということが必要なのかと思います。

今言われた商店会、商店街の話は、多分生活に近いところなので、あそこの家がとか、八百屋のおばちゃんがという話になってきます。やっぱり身近なテーマだと、こうしたらいいじゃないか、ああしたらいいじゃないかという意見は多分、特に若者は持っていると思います。

だから、今度はそうすると商店会側が、そういう話に聞く耳を持っているかという話になってきますけど、それでもやっぱり同じだと思います。どこかの商店会をよくするためにはどうしたらいいかという場をどういうふうに設けるかとか、どういう方法を使うかは同じ話だと思うので。

◎西尾委員長　終わりの時間が近づいてきたので、私のほうで簡単な整理をします。

まず、このタイトルです。「若者の市民参加をより一層推進するために」というのは、やっぱり再考しますか。若者をどこまで強調するか。仮にサブタイトルがあれば、そっちに入れるということもあり得るかもしれないので、タイトルは引き取らせていただいて、今日の意見を伺いながら考えたいと思います。すごく重要で難しいことですが。

それから、手法としてはワークショップについて最初から議論していますが、今日出たのは畳の車座集会ですか。

◎一山委員　それはイメージです。

◎西尾委員長　イメージですね。

それから、職員のことも話しましたが、当然市長と会ってもいいわけですよね。

あとは、その中に入るかもしれませんが、まちを歩きながら市政を学ぶ、学習会的な要素が

手法としては出ているかと思いました。

場所はどうでしょうか。どこでやるのか、大学という言葉も出ましたが。

◎一山委員　大学は施設を使うときに、お金を取ることはまずあり得ません。特に公共機関と一緒にやるときには、うちは包括連携協定がありますので、お金は絶対取れないと思います。

◎西尾委員長　なるほどね。

◎中村委員　市のきたまちセンターでも、北町ホールというのがありますけど、そこは結構人が入ります。無料です。

◎西尾委員長　候補がたくさんあるのは大事で、施設を見るのもおもしろいと思います。そういうところで初めて大学のキャンパスに入ることもあったりするといいですよね。

◎一山委員　あと、男女共同参画で消防団のことも。現実問題、消防団員の方は私の知り合いにもいて、本当に困っていらっしゃるので。女性でやりたいという方もいらっしゃるので、そういうのを、すぐには無理にしても少し。

◎西尾委員長　いろいろなテーマ、子育て、介護、防災、料理、財政、それから消防団は防災の中に入ると思いますし、組織づくりや商店街とかですね。こういうものもできるだけ出てくるといいと思います。

それから、五島さんが言われた、入りやすくするためのいろいろな演出というか、楽しい雰囲気、そういう工夫も必要でしょうね。

提言をしたら１年以内に必ずやってもらうとか、１年以内に２回やってもらうとか、それは相談しながらだと思いますが、そういうことも書き込んでもいいという気がします。

出前は、既にそういう慣行があるようですが、それに、参加をエンカレッジするような出前のあり方を書き込んでもいいかもしれないという気がしました。

ほかに何かありますか。この論点はぜひ提言の中に入れたいということがあれば。

◎一山委員　次回の日程を決めた方が。

◎西尾委員長　そうですね。次回の日程はどうでしょうか。

◎事務局　次回ですが、２月は都合が悪い方がいらっしゃるので、３月の木、金の７時からということで調整したいと思います。一番早い日程で、３月の９日になります。

◎西尾委員長　では、３月９日の１９時からを第１候補としておきたいと思います。

では、次回のことが決まりましたので、事務局で連絡事項等ありましたら。

◎事務局　それでは、本日、マイナンバーをお忘れになった方へ。こちらは必ず直接確認をしなければいけないというのが大前提になっていますので、お手数ですが、本日忘れた方は、企画政策課の窓口に１２月の１週目ぐらいまでに来庁いただき、ご提示をお願いいたします。それまでに難しいという方がいましたら、個別にお電話等で相談していただければと思いますので、よろしくお願いします。

◎西尾委員長　ということです。それでは、ちょっと早いですけれども、皆さんよいお年を。

（午後９時００分閉会）